

建設トップランナーフォーラム

2分科会が合同フォーラム

林業・建設業の共生へ

建設トップランナーフォーラムの「建設帰林で持続可能な環境ビジネス分科会(馬淵和三座長、山辰組社長)と森林再生分科会(加藤徹座長、加藤建設社長)はこのほど、岐阜市で林業と建設業の連携と共生を目指し、合同フォーラムを開催した。建設業や林業に携わる経営者、行政機関関係者ら180人が参加した。

基調講演では、米田雅



米田慶大教授

子慶応義塾大学教授が「建設帰林で持続可能な環境と林業」をテーマに講演。森林と建設の循環を取り戻すためには、林の建設業は林業や農業、環境事業など複数の業務を兼ねて自立することが求められる」と指摘。森林と木造建築の循環による地球環境と共生する建設業を目指すべきであると述べた。

岐阜県林政部の森勝次長が「岐阜



中原極東森林開発社長

特別講演では、極東森林開発の中原丈夫社長が「CO₂と水考えた林業の活用などにより林業を高収益体質に転換した取り組みを説明した。その上で、「競い合うから健全なもの、良いものが生まれる。若者が目を輝かせて働ける環境づくりが必要」

県における林業行政」に業経営」をテーマに講演ついて講演した後、井納建設の井納英昭専務が「山から川への贈り物」と題し、多自然川づくりに向けた取り組みを発表した。

と呼びかけた。パネルディスカッションでは、「建設業と林業の共生・協働」をテーマに新分野進出へのビジネス

スチャンス、行政の支援策・支援体制などについて話し合われた。パネラーは米田教授と岐阜県森林組合連合会の三島喜八

郎副会長、岐阜県土木整備部の金森吉信土木技監が、コーディネーターは馬淵氏が務めた。